



都繪馬鑑

壹

洋学文庫
文庫8
D 256
1



文庫 8
D 256
1

速水春曉齋纂
北川春成子画

更澄齋
花書印

都繪馬鑑 全五冊

浪華書林 文金堂
文尚堂

都繪馬鑑序

浪華書林

浪華書林

鑑新たか子しん書しよ法ほふ風ふう録ろく樹じゆのの物もの合あ川が北きた川がのの書しよ録ろく
 文集ぶんしつ中ちゆうにに録ろくしし。活かつ水すい清せい水すいのの小こ遊ゆうのの神かみ園ぐわんのの欄らんののよよ
 中ちゆうのの書しよ録ろくをを眺ながむむ。ままにに書しよ録ろくををおおももははふふ。南なんのの歌うた
 をを吟ぎんむむ。古こ人にんのの神かみ祓はらひひのの小こ形かたちををおおももははふふ。貴き族しゆををままははるる
 小このの書しよ録ろくををああららわわすす。ここのの神かみををおおももははふふ。凡おほ山さん水すいのの書しよ録ろく
 神かみ祓はらひひのの書しよ録ろくををああららわわすす。有あるる書しよ録ろくををままははるる。ままににかかのの書しよ録ろく
 小このの書しよ録ろくををああららわわすす。古こ人にんのの書しよ録ろくををああららわわすす。他たのの書しよ録ろくををああららわわすす。

浪華書林

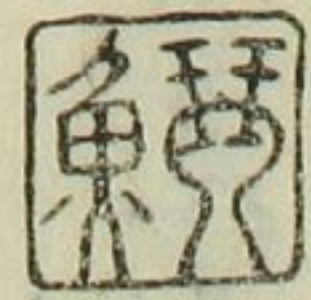
あらうもむねまきくこくをいふ及社佛家とてふ
 なる事ふらふにびを境他國にいふ。そはたかや
 知る候あり然るふ六の南顔もつくりて調子もあ
 きぬらものまじりて根く地境もさうまう
 なる。あうれお佐中扇影の形も摸して。いぬ入のおふ
 思ぬらんこふふらふよ。合は二川子言さし感しん。あは舞
 しくいこ。早大のまじりてだ。古よりあまのあま
 補う人まの。あま 精神を凝。丹青もさうまう画

なる。然らうもむねまきくこくをいふ及社佛家とてふ
 なる事ふらふにびを境他國にいふ。そはたかや
 知る候あり然るふ六の南顔もつくりて調子もあ
 きぬらものまじりて根く地境もさうまう
 なる。あうれお佐中扇影の形も摸して。いぬ入のおふ
 思ぬらんこふふらふよ。合は二川子言さし感しん。あは舞
 しくいこ。早大のまじりてだ。古よりあまのあま
 補う人まの。あま 精神を凝。丹青もさうまう画

外頭廟の扁額。なほふもの中。すのこを撰ぎし
よはふ草のさふはさるる。ふ一口半は平の幣屋ふ
まらふ。之條のし物。此書の叙。しるし
るは。ふ。扁額。水。花。頭。す。ふ。こ。し。は。ふ。さ。り。ん
は。ふ。る。日。の。お。持。る。ま。の。は。解。新。得。る。ふ。こ。し。の。ま。り
ふ。書。行。い。も。序。持。る。人。は。は。書。を。ふ。こ。し。也。

よみこま仲多上候

棟より五々魚



目次

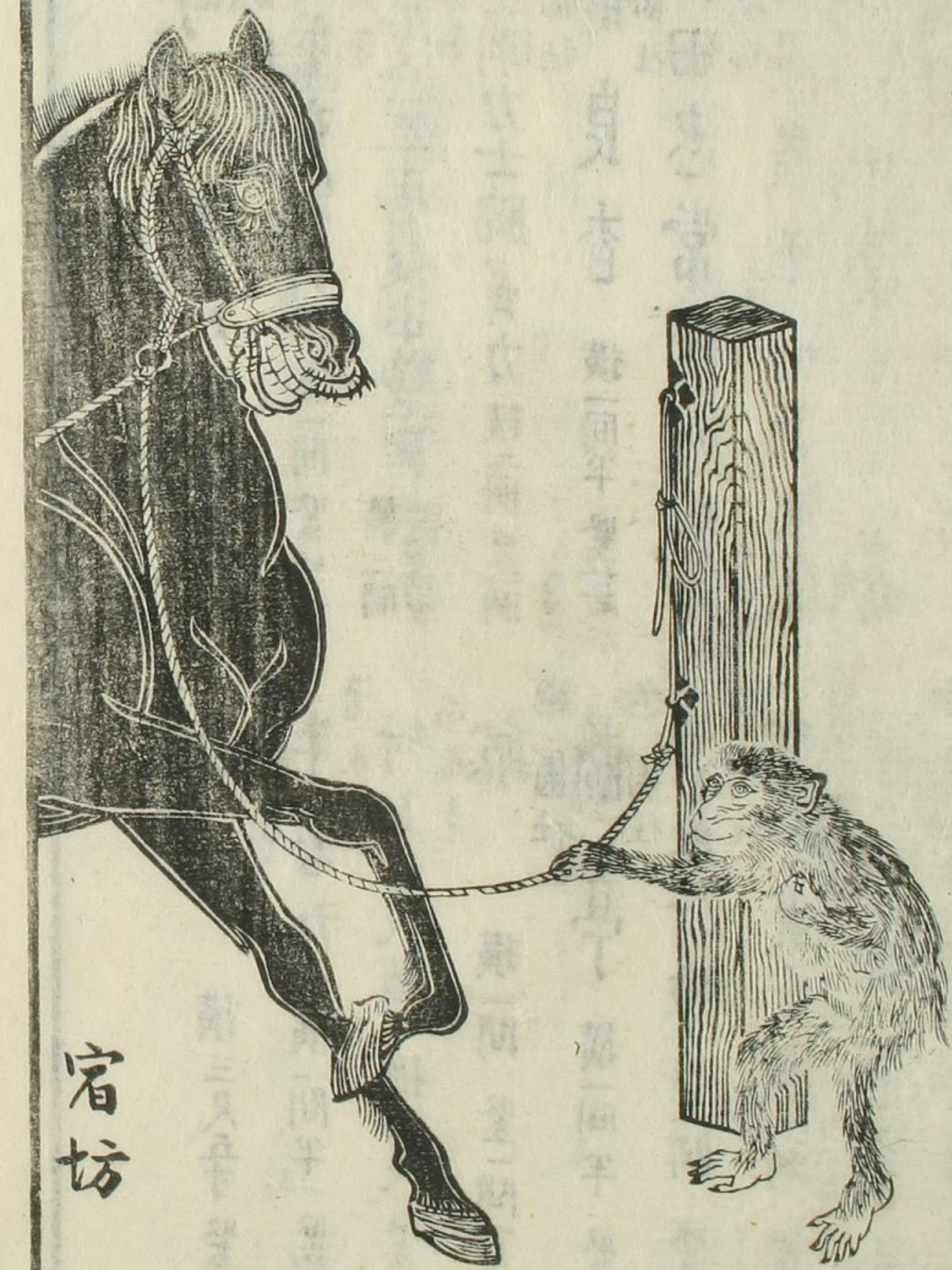
清水寺 馬	横五尺 竖三尺五寸	清水寺 遊女	横三尺五寸 竖一間
祇園社 大黒布袋角力	横二間 竖四尺	清水寺 牛若丸	横二間半 竖二間
清水寺 寛文二年正月洛中路上園	横二間 竖二間半	清水寺 村上義輝	横四尺 竖三尺
清水寺 金剛力士腕角力	横二間 竖二間	祇園社 船	横一間 竖二間一尺五寸
祇園社 都良香	横二間半 竖七尺	祇園社 蘭	横二間半 竖一間
祇園社 仁田忠常	横二間 竖四尺	祇園社 諸彦行粧	横二間 竖三尺
祇園社 握原景末	横二間 竖四尺	清水寺 雪山童子	横二間 竖一間
祇園社 朝比奈押曳	横二間半 竖二間	清水寺 美食老窠	横二間半 竖二間
祇園社 兵衛土佐坊	横二間 竖四尺	祇園社 一田士	横七尺 竖五尺
祇園社 中心成皿	横二間 竖二間半	祇園社 釣狐	横二間 竖三尺
祇園社 八幡太郎	横二間 竖二間半	祇園社 玄六示揚貞妃	横三間 竖二間

人馬の
心持
は
故に
信の
ま
た
し
り



執行

清水



宿坊



奉掛河寶前

清水

宿坊
成院



此
二子

寛永十五六月吉日

長谷川忠孝筆



原中ら丸鞠るゆま〜羽た〜會て劍法個練〜と
 ン〜〜〜修〜〜そのは碑〜と〜バ〜〜と〜眞日〜障の〜見〜の
 黄〜〜〜よま〜〜と〜和清〜今日の潭の〜

願成就所



上
臺

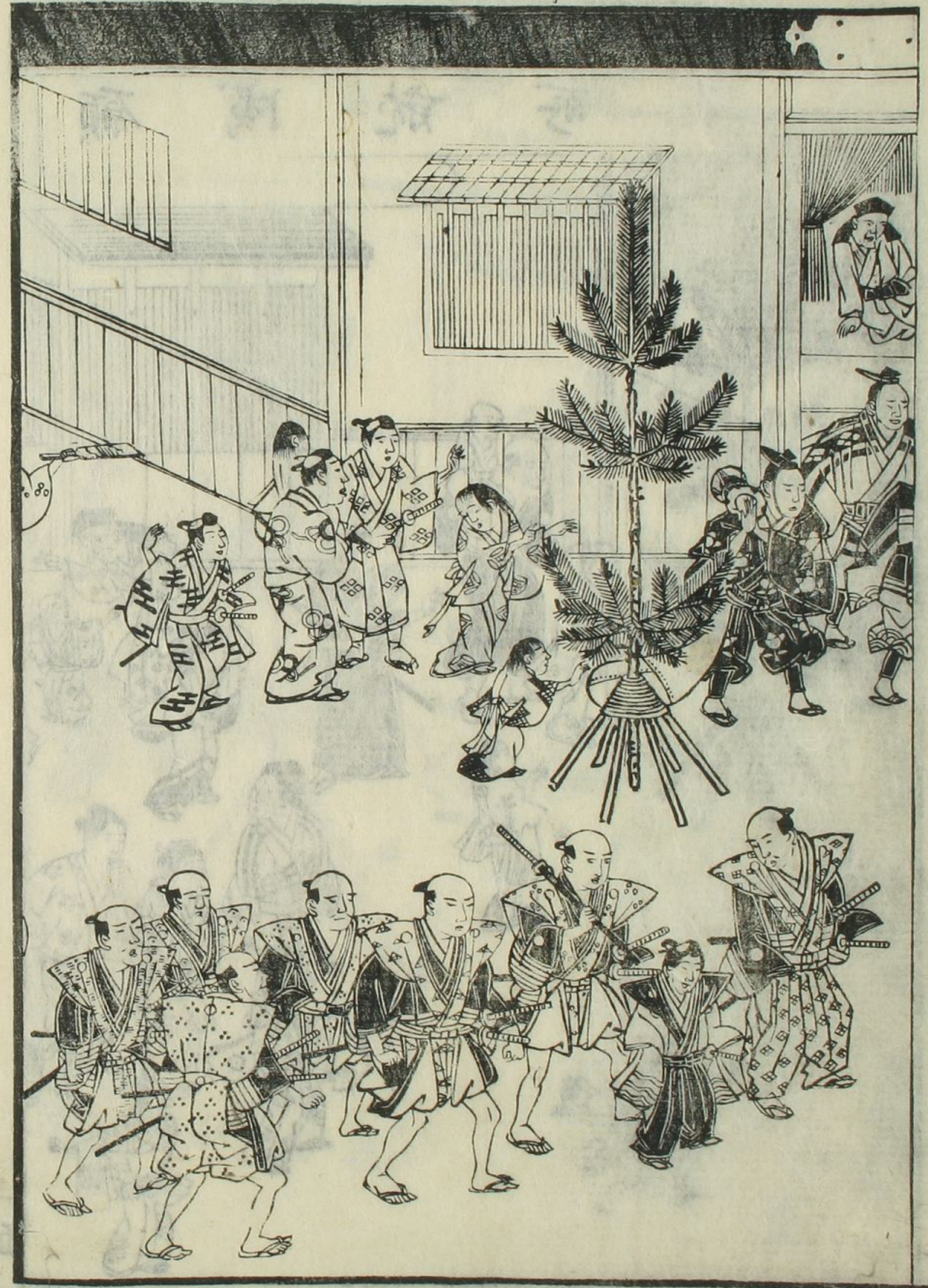
奉掛御寶茶諸



清水

宿坊長備光樂院

主
鶴





下



下ノ臺

寛文二年五月吉日



其二



御寶苺



享保二十酉歲
二月吉日

渡邊左近筆

陳

奉掛

清水

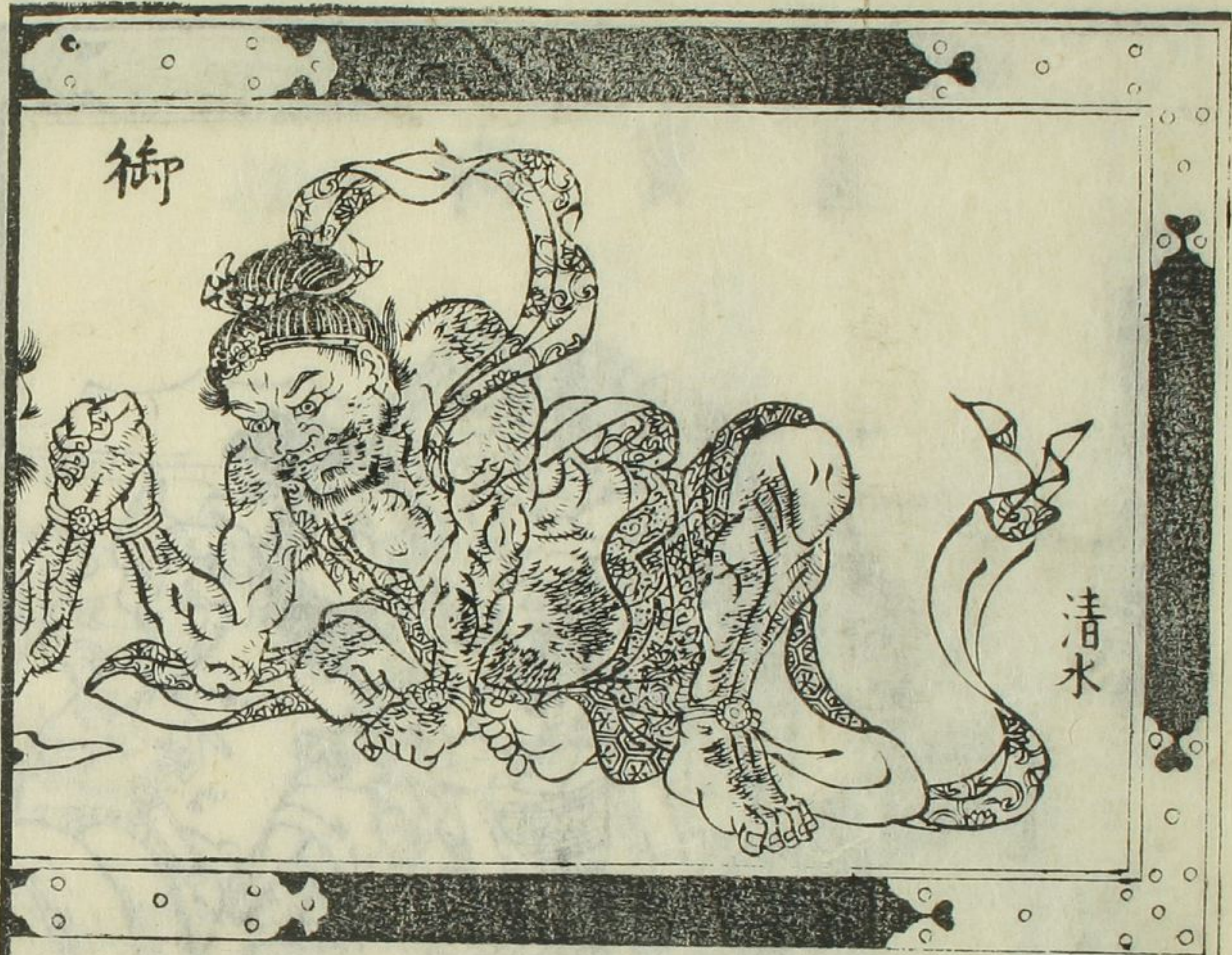


願主

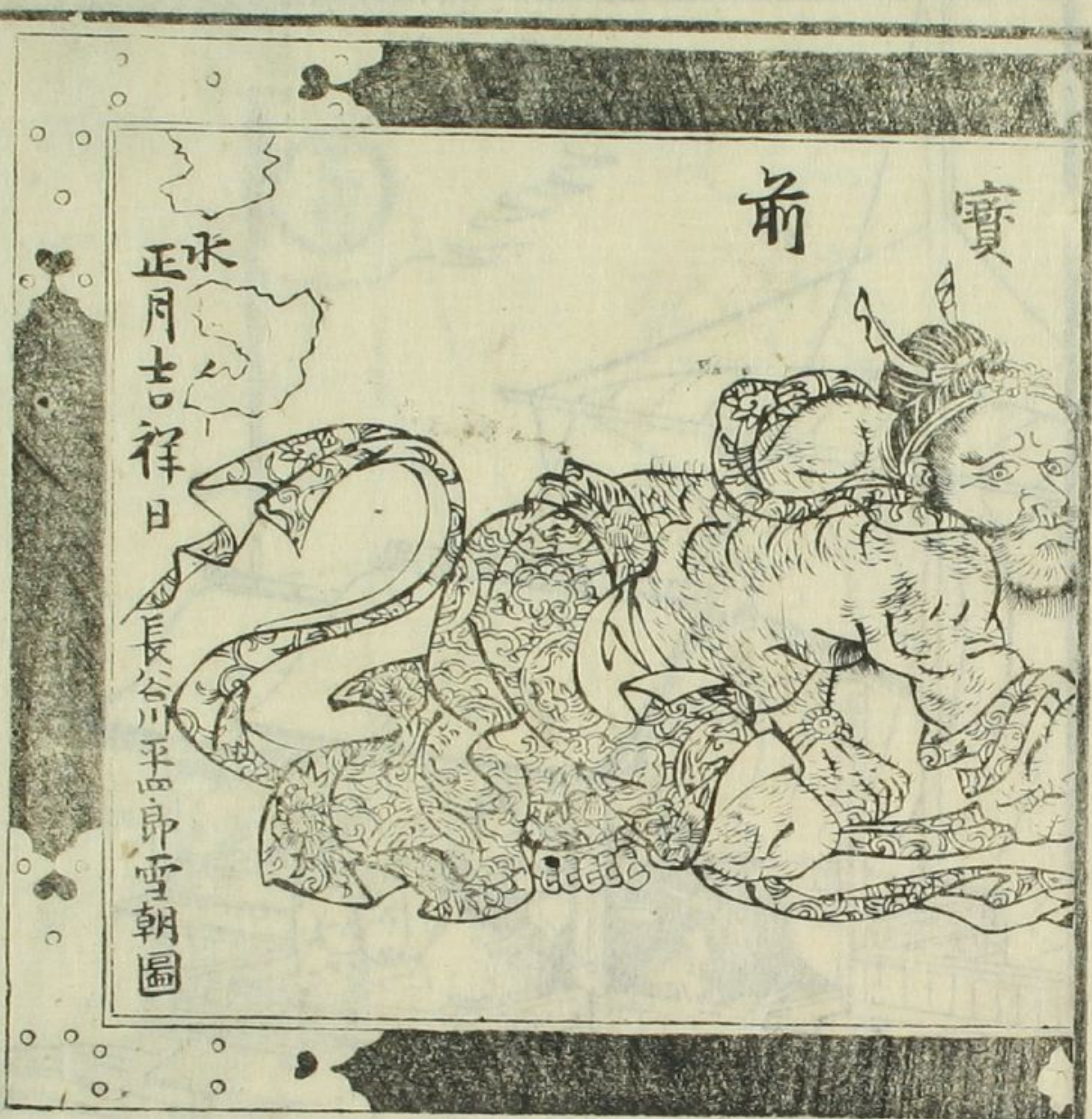
白敬

富坊
成就

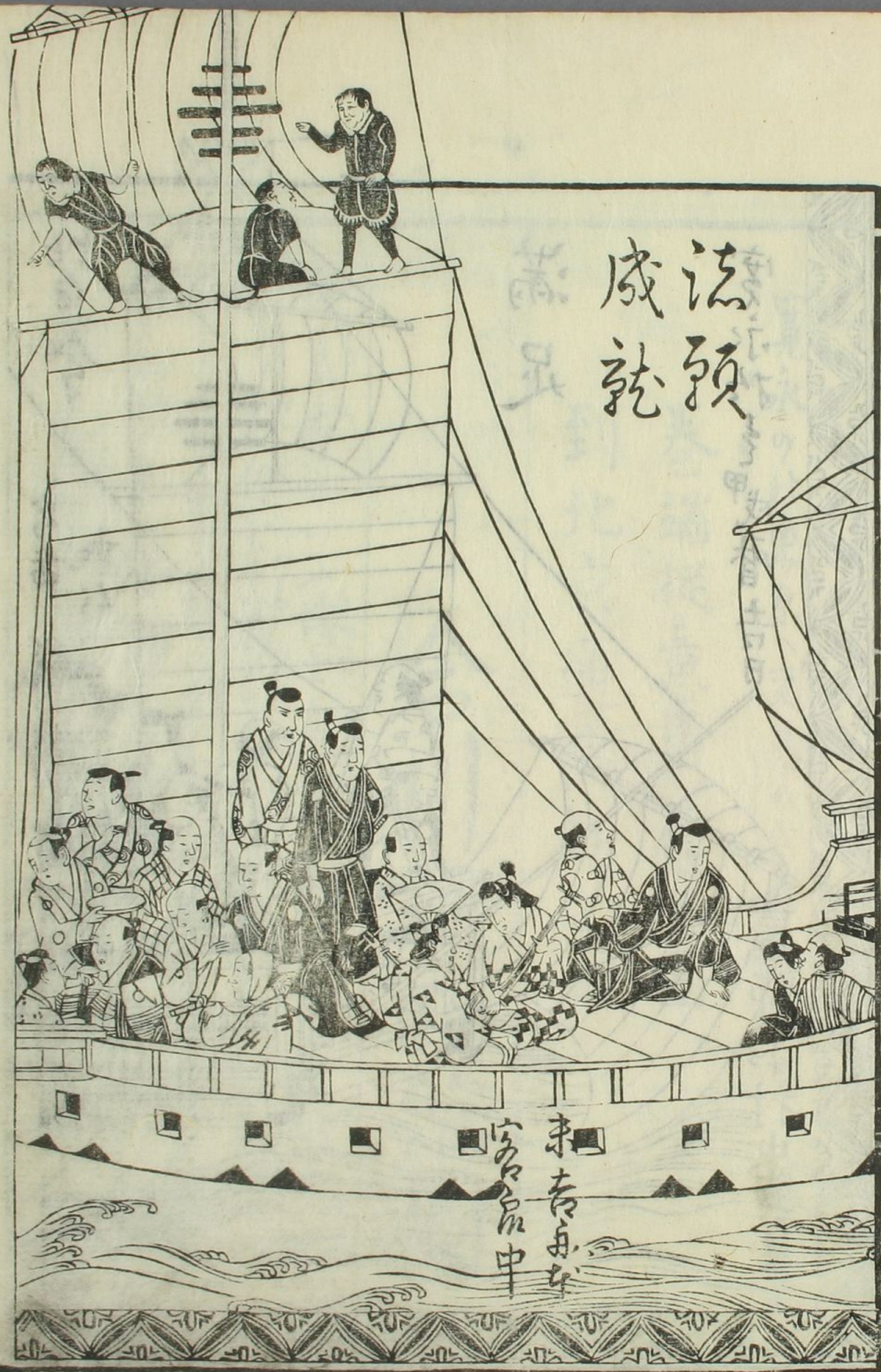
寛文二年を画より今文政二年の...
 一日五十余年を隔つ...
 男女の...
 ...

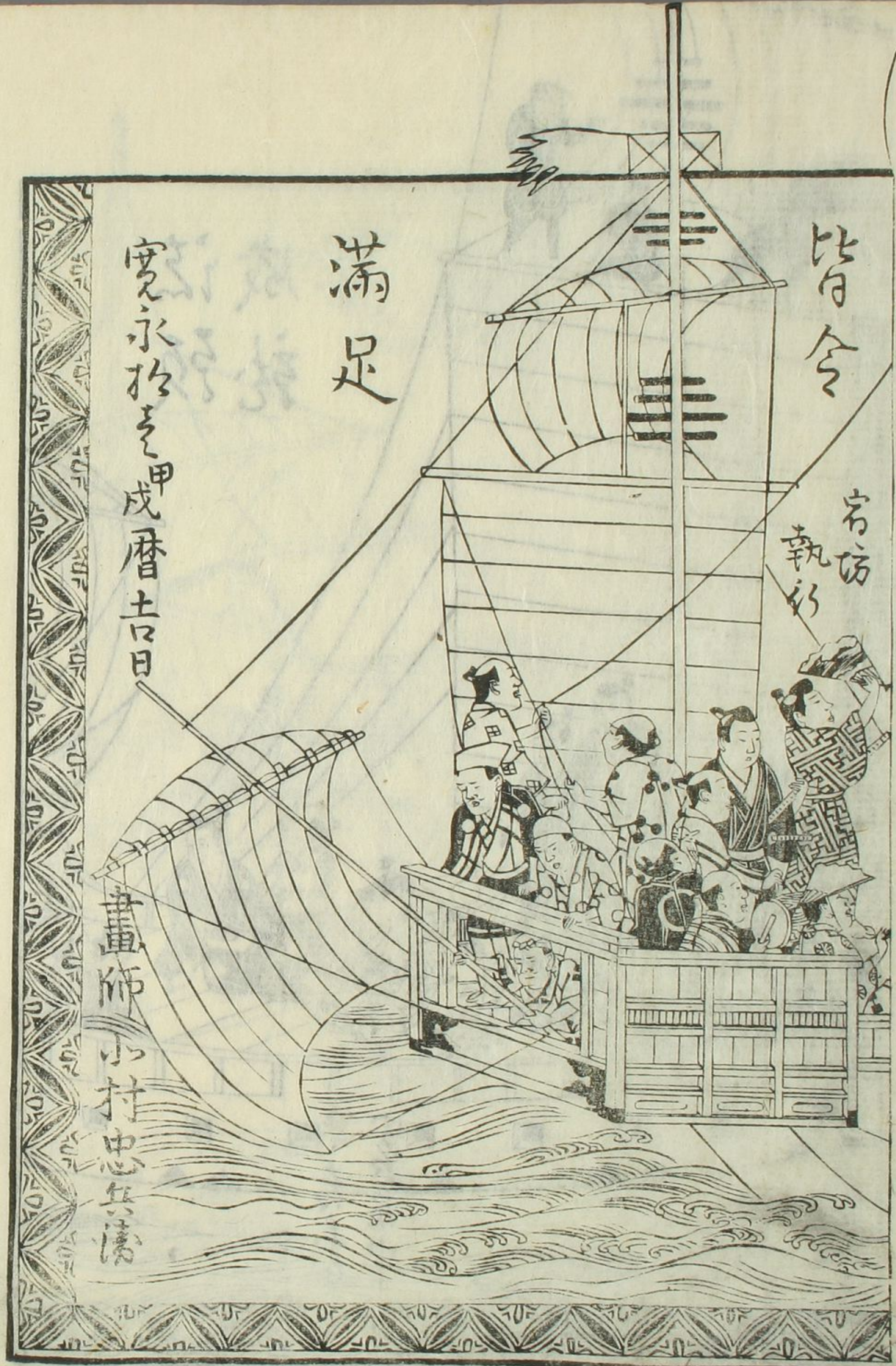


大塔の護良親王は
 跡くさあせむの
 十津川の辺に
 住す可下し郷
 日月あつる
 清水の
 村の西郎を
 法
 たる記



水正月吉日
 長谷川平四郎雪朝圖





満足

寛永拾壹年戊曆吉日

畫師 小村忠兵衛

皆令

右坊 執事

寛永のは東京へ交易のこゝを往來す一船の事

卷端從意馬心猿之圖
到北京通商舟之圖

合川珉和縮圖

都島ありと博士の氣零風梳新物故といふがと
 ぼくがふとあつたべし折らうと舟の前のり
 了らうと中よちあつた水消浪洗旧を新と
 けりて佳對とゆらうとけりて自の作り
 と謂て菅らうとてさるこい後句の思外の句なりと作れ

奉掛御

祇園



望月勘助圖



寶前

享保九甲辰年五月吉日



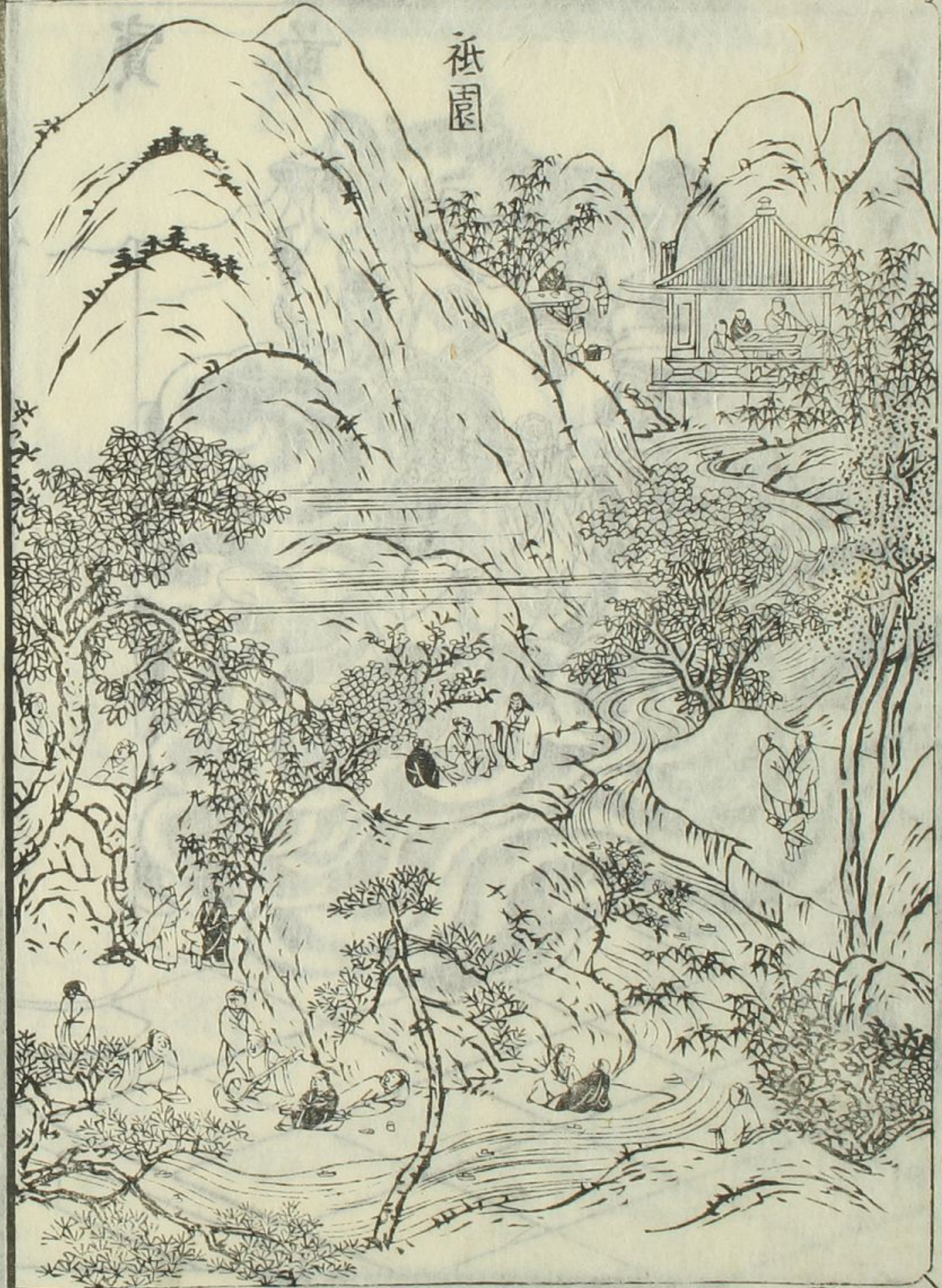
寶曆四年甲戌夏日寫於
祇園新坊



平安記
田



祇園





子... 園... 大... 山...
 人... 物... 山... 山...
 山... 山... 山...

元禄十五年壬子年九月廿日
 奉掛御寶前
 元禄十五年壬子年九月廿日



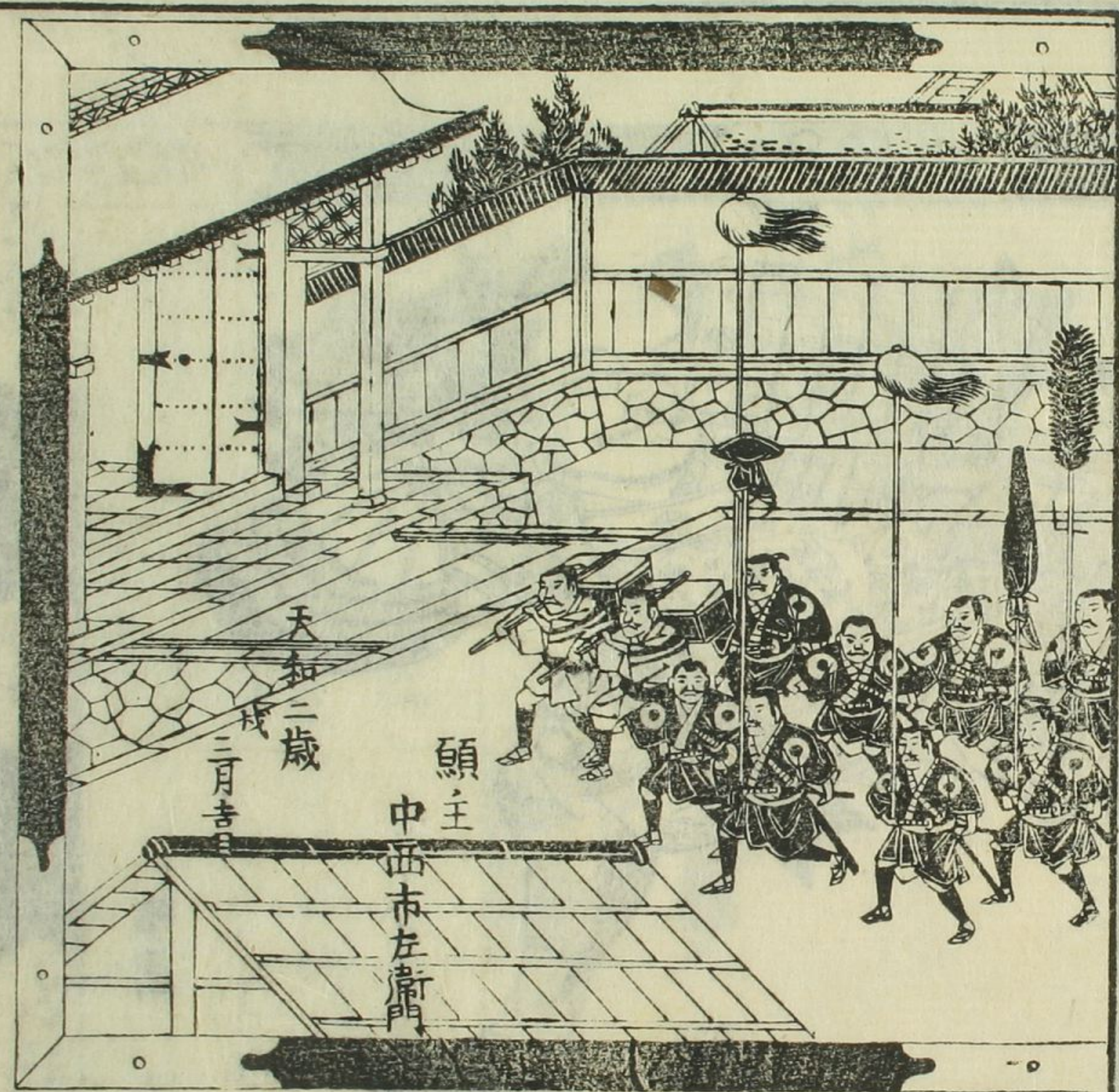
宥坊新坊
 兩次幸園

仁阿郎即忠者
 源頼朝の御
 後をたもつて
 美後と
 世々く

祇園

海北友賢奇筆圖





天和二歳
 三月三日
 願主
 中西市左衛門
 因ふり俗小浮世
 又ふり俗小浮世
 一風を画しと
 ことも原まほは世
 み平い近き戯
 作よちくくくく
 せよ在し人か
 是れ童蒙の爲よ
 しの



このつゆめくま
 此圖湯浅亦共衛
 のまきとありとこ
 写し出し
 後人の鑿と侍
 の

寶光院

五月吉日

祇園



井上勘兵衛筆

奉掛御



宿坊
寶光院

新加め朱印山よる四ノ文をくわしめしむる
 空神よきしりかき授まふしむる一もふりくわしむる
 法美經をくわしむる一もふりくわしむる

奉掛御宝前

延享三丙寅年
 六月吉日



服部梅信筆

建久二年相州大坂にて和岡の二致直めを信せしむる
 振の海より曾我五郎時宗々甲の多摺と銘はふる
 義秀より引きさしむる一もふりくわしむる



宿坊
 西梅坊

祖園

前諸願成所

寛文七丁未年九月吉日



えん正天白王ヨヲ電二年美濃国々々度山々々酸泉涌出
とらららら改えおて美ららららとららららとららららと
よふ是身は心く

奉掛御寶

清水



願主敬白

宿坊 執行



奉掛御宝前



兼仕敬白

狩野造酒助筆

諸願成就皆足

祇園

明曆二丙申正月吉日



願主

山本長九郎門

源美於六条堀川より多岐路へ向ふに
 土佐坊正徳再びて上洛せしと氏新坊并其早
 く寄付く土佐坊より龍舟よむい舟並りて
 土佐坊より引糸をて堀川へつぎつぎと
 圖より

享保十八癸丑年十二月十五日

宿坊
東梅坊

願主
内藤氏



奉掛御寶最

祇園

狩野永隆筆





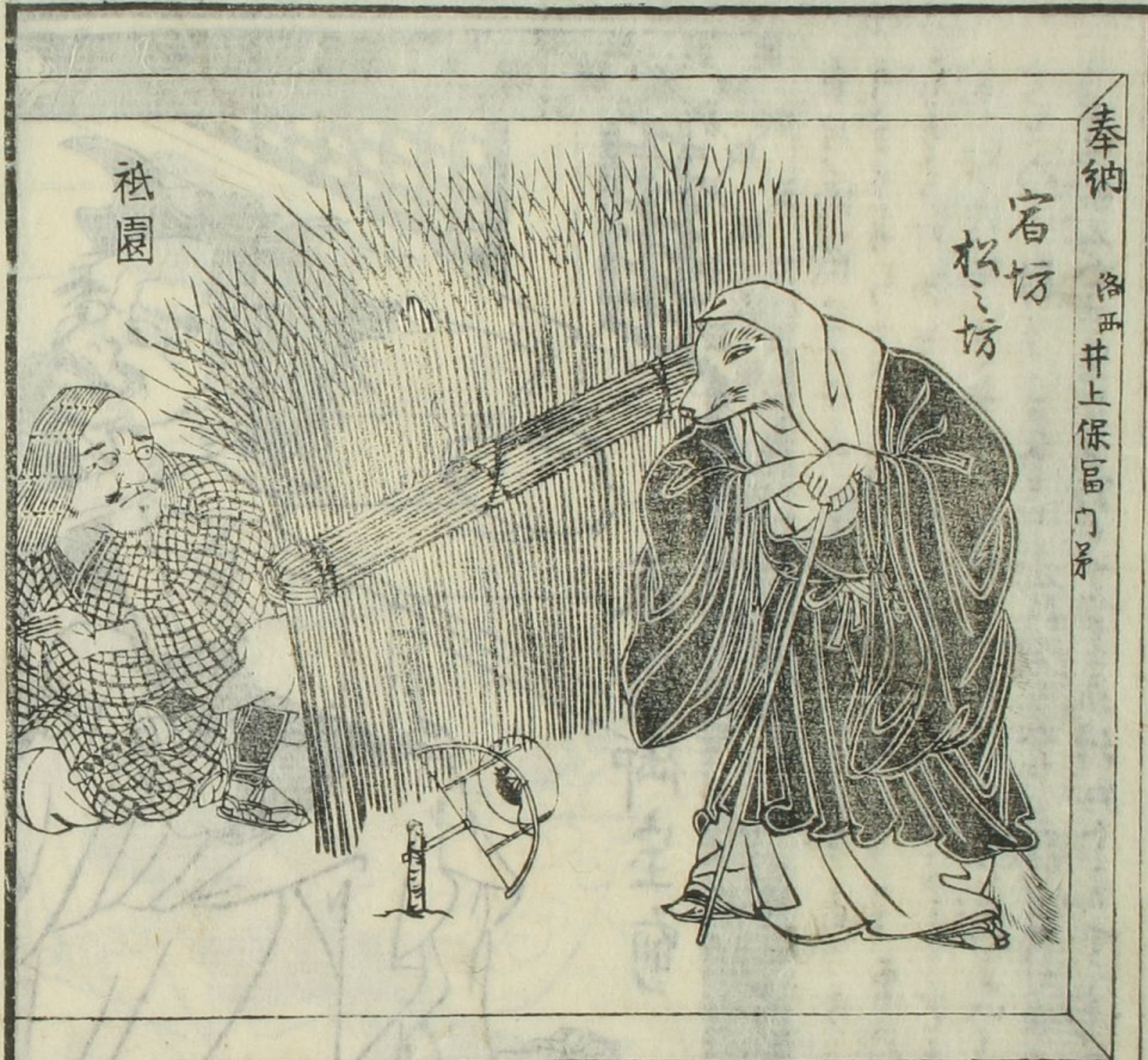
元禄十六年 癸未二月吉日

畫工河合翰雪圖

西川右京祐信行年七十四歳筆
延享元年甲子歲五月

祇園

取次幸圓 願主多田氏勝親敬白



奉納 洛西 井上保富門弟

松坊

祇園

神切白土石三跡津征
 伐の時肥前の島根浦川
 の務敷きりりりりり
 のみ 故更と重る
 え但紙きりりりりり
 孫りりりりりりりりり
 りりりりりりりりりり

奉獻



法橋春甫画

同章

八幡太郎義家朝臣
 勇烈に三平の合戦
 のころは川の浦を
 自任の舟を海に
 九十九の舟を八
 坂の舟を八十八
 舟の舟を八十七
 舟の舟を八十六
 舟の舟を八十五
 舟の舟を八十四
 舟の舟を八十三
 舟の舟を八十二
 舟の舟を八十一
 舟の舟を八十
 舟の舟を七十九
 舟の舟を七十八
 舟の舟を七十七
 舟の舟を七十六
 舟の舟を七十五
 舟の舟を七十四
 舟の舟を七十三
 舟の舟を七十二
 舟の舟を七十一
 舟の舟を七十
 舟の舟を六十九
 舟の舟を六十八
 舟の舟を六十七
 舟の舟を六十六
 舟の舟を六十五
 舟の舟を六十四
 舟の舟を六十三
 舟の舟を六十二
 舟の舟を六十一
 舟の舟を六十
 舟の舟を五十九
 舟の舟を五十八
 舟の舟を五十七
 舟の舟を五十六
 舟の舟を五十五
 舟の舟を五十四
 舟の舟を五十三
 舟の舟を五十二
 舟の舟を五十一
 舟の舟を五十
 舟の舟を四十九
 舟の舟を四十八
 舟の舟を四十七
 舟の舟を四十六
 舟の舟を四十五
 舟の舟を四十四
 舟の舟を四十三
 舟の舟を四十二
 舟の舟を四十一
 舟の舟を四十
 舟の舟を三十九
 舟の舟を三十八
 舟の舟を三十七
 舟の舟を三十六
 舟の舟を三十五
 舟の舟を三十四
 舟の舟を三十三
 舟の舟を三十二
 舟の舟を三十一
 舟の舟を三十
 舟の舟を二十九
 舟の舟を二十八
 舟の舟を二十七
 舟の舟を二十六
 舟の舟を二十五
 舟の舟を二十四
 舟の舟を二十三
 舟の舟を二十二
 舟の舟を二十一
 舟の舟を二十
 舟の舟を十九
 舟の舟を十八
 舟の舟を十七
 舟の舟を十六
 舟の舟を十五
 舟の舟を十四
 舟の舟を十三
 舟の舟を十二
 舟の舟を十一
 舟の舟を十
 舟の舟を九
 舟の舟を八
 舟の舟を七
 舟の舟を六
 舟の舟を五
 舟の舟を四
 舟の舟を三
 舟の舟を二
 舟の舟を一

祇園



天明五乙巳歲
 五月吉日

宿坊
 社務執行
 寶壽院

取次
 本願

祇園

狩野縫殿助藤原永良



北七

奉獻

寶曆十二年歲次壬午季夏仲翰



宿坊
松坊

三子の中や実出な後を
九重城外を洞壺院

唐の玄宗楊氏の女を宮中より入く寵偶甚しく貴妃の位を賜りて後宮三子の一人を寵愛す
とて揚そ妃とてしよ飲系孫高し

縮圖画匠

合川 珉和
北川 替成



都繪馬鑑一之卷終
川端 藤三郎

